

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム花 * 花

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200327		
法人名	JAライフサポート		
事業所名	グループホーム花 * 花		
所在地	岩手県宮古市墓目第三地割15番1		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390200327-00&Pr efCd=03&Ver si onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お花が好きな利用者とは室内に飾る花を一緒に買いにでかけ花壇に植える球根の配置をお任せしたり、野菜作りが得意な利用者には野菜作りのコツや草取りをしていただき、お料理が好きな方には野菜を切って漬物を作っていたりなど、その方に合った支援を心掛けております。理念を、大家族＝入居者様の声を聞き穏やかに暮らせる、ご家族が安心して預けることができる、スタッフも笑顔になれる職場環境と掲げ、ご家族と協力し合いながら支援をし意見が出しやすく教え合えるような職場の雰囲気作りにも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南にJR山田線と国道106号が走る、畑に囲まれて民家が点在する環境に今年度開所した事業所である。理念は皆で話し合った結果、入居者、家族、スタッフを“大家族”の構成員と捉えたものとしている。最初の入居者は地区民との絆が強く、交流が図られている。訪問看護と連携し、訪問診療も行われており、家族ニーズに応え9月に看取りをした。訪問看護師を入れての振り返りを丁寧に行い、チームで支援する体制が整った。理念の「スタッフも笑顔になれる職場」が出来ており、職員同士が話しやすく支援し合っており“大家族”の良さが伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム花*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時、職員皆で考え理念を掲げました。ホーム内、数か所に貼りだして再確認しながら業務にあたっております。	全職員で約2ヵ月間話し合い、入居者、家族、スタッフを“大家族”と捉えた理念を定めた。大家族を構成する利用者、家族、スタッフを明確に位置付け、玄関・ホールに掲示して共有を図っている。理念に沿って、職員は笑顔を大切に助け合う職場作りに努めている。	理念の定着・実践のため、具体のケースに照らしながら、グループホームの在り方等と理念とを関係づけたケアの日常的な振り返りを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に招待され参加しております。夏にはバーベキュー大会を開催し、地域の皆様に招待しております。中学生が、3回ほどボランティア活動で来所しております。	盆踊り大会や敬老会の案内を地域から頂き参加した。入居者と地域住民の方々との絆が強いこともあり、皆さんが頻繁に来所される。付近で発生した民家火災の際には、多くの住民の方々が駆けつけて下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方の認知症についての質問に答えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット等をはじめ、状況を報告しております。市や地域の方の意見を職員で共有し、改善へ努めております。	行政、区長、産直、訪問看護ステーションの看護師、利用者家族を委員とし、テーマに応じて駐在所、消防署、民生児童委員などにも参加をお願いしている。委員からは、認知症や事業所での看護師の役割りなどについての質問も出され、活発な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点などは、市町村担当者に確認しております。また、運営推進会議に市町村担当者にも参加していただいているため、意見や他事業所の様子などを教えていただき参考にしております。	行政担当者からは、各種情報や課題ケースの相談、支援を得ている。利用者には生活保護を受けている方、成年後見制度利用の方がおり、行政担当者と連携している。開所したばかりでもあり、地域との交流についてのアドバイスを頂くなど、行政との協力関係を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に対し、身体拘束の基準を提示しております。帰宅願望のある方等に対し、対応を工夫するなどして身体拘束を行わないようにしております。	身体拘束廃止委員会を結成し指針を定め、定期的研修を実施している。近隣のグループホームと合同で資料を活用し内部研修を行った。帰宅願望の強い方がおり、スタッフ同士で助言しあいながら試行錯誤を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部研修会を行い定義、実態、対策等を学ぶ機会を設けております。職員どうし声掛けや関わり方を観察し、お互い注意し合えるよう心掛けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、必要時には関係者と連絡をとっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時は説明を行い家族や利用者には不安が残らないよう支援しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者1人1人と向き合い訴えを聞いております。ご家族の来所時にはゆっくりと話が出るように心掛けております。家族会のような集まりが出来たらいいと考えております。	利用者の声を受け、テレビ視聴のソファの位置変更や足置き台を設置し、穏やかな暮らしの実現に努めている。通院に同行する際の移動手段を持ち合わせていない家族からの要望があり、職員と利用者が病院で落ち合う方法も取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議を開催し、業務等の意見を出し合って改善しております。	職員の年齢層のバランスが良く、自由に意見・要望を言いやすい職場環境にあり、職員の意見で申し送りノートや排泄記録表の様式変更、勤務時間の変更などの改善を図っている。看取り事例を振り返る会議では、職員個々が心に抱いていた気持ちを素直に発言することが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望はなるべく受け入れるように努めております。介護未経験の職員に対し、勉強会を開催しケアの再確認を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士教え合える雰囲気作りには心掛けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を通じ、同じグループホームの従業者と情報交換をしております。お互いに事例などを踏まえ、対応等参考にさせていただいております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望があった際には事前に面会してグループホームの利用環境や目的について説明し不安な事等を伺い、安心していただけるように対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みがあった際には、利用者や家族と面会し利用に対する不安の軽減に努めております。利用初期には、利用者の不安からくる訴えに応じて来所していただいたり、電話で話をさせていただく等の対応をし安心して過ごしていただけるように対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前より、他事業所などと連携を図り身体状況の変化の把握に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の立場だけではなく、日頃の声掛け等で寄り添いながら楽しく満足していただけるよう対応しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時はご家族に対応していただき、共に理解出来るように努めております。面会時には、ゆっくりと過ごしていただけるよう対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時などは、周りを気にせず話が出るように場所を変えて対応しております。ご自宅を見たいと訴えがある場合は、ご家族に協力していただき対応しております。	友達・兄弟・元職場の同僚が来所された時は談話室で歓談している。ホームの畑を見て自宅の畑の草が気になり、家族の協力に対応する事もある。近隣の理容店に出かけており、冬期間は理容師が来所している。家族へ電話して安心して眠りに付かれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好に進むよう、話題づくりのために職員が間に入るなど対応しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後に契約が終了したご家族が、近くにいらした時にはお寄りになり近況を報告してくださっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いを確認しつつ、意向に沿えるよう努めております。	日常の会話や入浴時の1対1での場面で思いや意向を汲み取っている。申し送りノートやアセスメントシートに記入し、職員間で共有している。自宅の庭に花を植えたいとの思いを受け止め、まず歩行訓練に精を出している。繋げて支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や今までの暮らし方を本人やご家族様に確認し、それぞれに合ったペースで過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や精神状況に変化があった際には、朝礼での報告と職員間ですぐに共有できるように申し送りノートに記入することとし、把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の気持ちを聞き出し、ご家族や訪問看護の意見を反映しながらそれぞれに合った計画を作成するよう努めております。	年度途中から採用した居室担当が申し送りノートに記入し、全員でモニタリングを行っている。毎月のケア会議でカンファレンスを行い、家族の意向や契約している看護師からの情報も加味して、介護計画を作成している。ケアマネが家族に説明し同意を得ている。	全員でケアを行いその記録を共有し、変化についても話し合い対応している。介護計画の活用点から、サービス内容(支援実施方法等)が確認できるよう工夫することで、支援の評価・見直しの充実に繋がることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務時間が違う職員同士、変化を共有し合うため申し送りノートに小さな変化も記入することとし、実践や計画見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、それぞれに合ったサービスが出来るようご家族や訪問看護と相談しながら進めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの地域資源を把握するまでには至っていませんが、地域の活動等には参加をし顔見知りになれるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、可能な限りご家族の対応としホームでの様子を伝えております。状況に応じて、事業所からかかりつけ医や訪問看護と連絡を取り合い、安心して医療を受けられるよう対応しております。	殆んどの方が家族同行で受診し、ホームの記録(血圧・食事・排泄など)のコピーを医師に届けている。訪問看護師と密接に連携し必要な場合には、直ちに対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームでの状況を随時お伝えし、適切な看護を受けることが出来るよう対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方はおられません。備えとして医師等に相談をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にあたっては、早い段階から訪問看護を交えご家族と話し合いをもっております。	利用開始時に看取りに関し説明し、終末期には家族の意向を確認のうえ、医師・看護師を交えて同意を得て看取りに介護に取り組んでいる。9月の看取り実績について、家族・訪問看護・職員により振り返りを行い、チームで支援する体制作りがなされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を訪問看護の指示に基づき行っております。訓練を定期的に行うまでには至っておりません。訪問看護を交え、勉強会を行いたいと考えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを掲示し、高齢者避難情報が発令になった際には避難しております。	ハザードマップの水害浸地域で、避難準備情報を受け系列事業所の車両で実際に避難した。火災想定避難訓練を年2回実施し、消防署から助言を得ている。夜間体制は2人とし非常時対応に万全を期している。備蓄品は2日分の食料や水とコンロを備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った、声掛けや雰囲気大切に 対応しております。	認知症研修に参加した職員が講師となり、利用者の尊厳とプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。居室やトイレに入る際はノックして声掛けするなど、利用者を変えた話し合いで最適な方法を選択している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴など、声かけを工夫しても拒否が見られる場合には無理はせず、日を改めてみるなど状況に応じて対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休みたい等、訴えを尊重し希望に添えるよう支援しております。その中でも、メリハリをもって1日の時間を感じていただくよう援助しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後にどの服に着替えたいかなど、一緒に選ぶように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁が使える方には切っていただいたりなど、様子を見ながら対応しております。調理方法や、味付けの仕方なども伺います。食後は、食器拭きやテーブル拭きなど一緒に行っております。	利用者が希望するうなぎ、鶏唐揚げ、ラーメンなども取り入れ、職員が献立を作っている。野菜は利用者と近くの産直で購入したり、自家菜園で収穫した物を使っている。利用者は食材の下拵え、味見、食器拭きなど職員と共にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量など、摂取量を書きとめ確保に努めております。摂取量が極めて少ない時などは、本人から食べたいものを聞き出し可能な場合は対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアのため、ほとんどの方が自ら洗面所へ移動しておりますが、それ以外の方はこちらから声を掛け促しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、定時でトイレ使用の声掛けを行い誘導を行っておりますが、それぞれの排泄パターンによって回数を増やしております。夜間オムツ着用の方も日中はリハビリパンツで過ごしていただき、トイレを使用しております。	排泄チェック表により、見守り・声掛け・誘導を行っている。自立トイレ排泄の方は2名。日中は全員リハビリパンツを使用し、夜間オムツを用いる方が2名である。居室でポータブルトイレを使う方は2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、予防として毎朝乳飲料をとっていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めてしまっておりますが、希望により日にちを変えることもあります。明日受診のため入りたい等の希望が聞かれることがあり対応しております。	週2~3回、午後入浴を基本としているが、利用者の希望などにより午前入浴も弾力的に対応している。季節に応じ菖蒲湯、柚子湯などで楽しんでいる。浴室は広く、浴槽が二つあり一つはリフト浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はお好きな時間に眠ることが出来るよう努めております。自室で読書をされたり、居間でテレビを見たりなどして過ごしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等を職員が確認できるよう、お薬情報をすぐに見ることが出来るようにしております。薬が変更になった際には、申し送りノートや訪問看護への報告で情報を共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に食材の買い出しへ出掛けたり、花壇に球根を植える、畑の様子を見に行くなど気分転換が出来るよう支援しております。それぞれの役割づけに今後力を入れていきたいと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に出掛けたい希望がある際にはご家族に伝え、可能な場合には対応しております。	穏やかな日には、産直への散歩、畑で野菜の世話や花壇の手入れ、ベンチでの日光浴をしている。事業所の車でスーパーに買物に出掛け、或いは浄土ヶ浜や紅葉狩りのドライブを楽しんでいる。家族の協力で外出、外食したり、自宅に泊られる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を手元に置いている方もおられます。ヤクルトさんなどに、自分で支払いをしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族へ電話をかけております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは臭いが残らないよう配慮しております。共有スペースへは季節に合った花を飾るなど工夫しております。	L型に並ぶ施設の交点に位置するホール兼食堂には大型清浄機と加湿器が3台あり、大型テレビ、テーブル、ソファが配置されたゆとりある空間である。床暖房とエアコンで快適な温度・湿度が保たれ、窓からは畑の様子が伺え、季節を感じられるスペースである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお好きな場所で過ごしていただいております。共有スペースで独りになれる空間づくりまでは至っておりません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがありますが、希望に沿ってご自宅で使用されていたものをご持参いただいております。	ベッドとロッカー付きチェストが備品で、利用者毎に使い慣れた椅子、テーブル、テレビ、ラジカセなどがそれぞれ持ち込まれている。壁面にはカレンダー、写真、誕生会色紙が飾られている。亡夫の位牌、遺影に菓子を備えている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの力を活かした環境作りまでは至っておりませんが、出来ることを奪ってしまわないよう心掛けて対応しております。		